

ESDに関するユネスコ世界会議(2014)に向けて



2012. 11. 27

文部科学省国際交渉分析官

岩本 渉



MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

1. ヨハネスブルグサミットからUNDESD制定まで
2. UNDESD中間年におけるボン会合まで
3. リオ+20での議論
4. ESDに関するユネスコ世界会議
5. ポスト2014への展望



1. ヨハネスブルグサミットからUNDESD制定まで

2002年ヨハネスブルグサミット

日本→ ESDの重要性

ESDの10年を国連が宣言するよう主張



2002年12月 第57回国連総会

「国連ESDの10年」（主導機関：ユネスコ）



2. UNDES D中間年におけるボン会合まで

2003年日本ユネスコ国内委員会

「ESDの10年」に関してユネスコが策定する
国際実施計画への提言

- 1) ESDとMDGsとの連携
- 2) 開発途上国における教育プログラムの開発
- 3) 先進国の課題
- 4) 地域社会における絆の重視
- 5) ESDを基礎とした教育の質の向上
- 6) 教師の重要性
- 7) 関係者間のパートナーシップの重要性



ユネスコ国際実施計画（2005年）

- 1)ESDのステークホルダー間のネットワーキング
- 2)ESDにおける教授と学習の質の改善
- 3)ESDを通じたMDGs達成に向けた各国の支援
- 4)各国の教育の取り組みにESDを組み入れるための
機会の提供

2005年 日本政府ESD信託基金の創設

2006年 日本政府「我が国におけるUNDESD実施計画」

2007年 第34回ユネスコ総会決議（抄）

加盟国は、持続可能な開発を各国の教育戦略の重要な要素として取り入れ、ESDの成功事例の交換等、DESDの実施において相互支援を行うことが推奨される。

ユネスコは、国際実施計画に沿ったDESDの着実な実施を確保し、ESDの可視化、関係者間の対話促進、ASPnetの活用、モニタリングと評価の基準作成等に向け、必要な手順を踏むことを事務局長に求める。



2009年 ESDユネスコ世界会議（ボン）

ボン宣言

<行動への呼びかけ>

- ・あらゆる教育そして質ある教育の実現に向けてESDが貢献するよう促進
- ・ESDに関する社会の意識と理解の向上
- ・ESDを支援する適正な資源及び資金の結集
- ・教育及び訓練システムを再構築し、国家及び地域レベルで一貫した政策を通して、持続可能性に関する事項に対処
- ・文化的多様性を尊重したESD実施のための仕組みや協力体制の発展・強化



2009年 第35回ユネスコ総会決議（抄）

DESDがEFAの目標の一つである質の高い教育を促進し、教育分野におけるミレニアム開発目標（MDGs）や他の国際的な開発目標の達成を支援していることを再確認する。

ボン宣言と国際実施計画に沿ってDESDの実施をより高められた形で確かに行うために、加盟国とユネスコがとるべきさらなる実質的なイニシアティブを認識する。

日本とユネスコが共催するDESD締めくくり会合をホストし、財政的負担を担うという日本の申し出を歓迎する。



2009年 ユネスコにおける中間レビュー

＜今後の取組分野＞

1. ESDに対する意識、意味、範囲
2. カリキュラム、教育、学習の新しい方向付け
3. 能力開発
4. 研究とモニタリング及び評価
5. ESDと他の「形容詞付き」教育との相乗効果
6. ESDのリソース及び教材
7. 国際協力
8. 国のネットワーク
9. 調整と連携
10. 資金調達



3. リオ+20での議論

“The Future We Want”

231. 我々は加盟諸国に対し、若年者における持続可能な開発に対する意識を、特に、「国連持続可能な開発のための教育の10年」の目標に従った、ノンフォーマル教育のためのプログラムの促進によって、促進するよう奨励する。

233. 我々は、「持続発展教育（ESD）」を促進すること、並びに「国連持続可能な開発のための教育の10年」（2005～2014年）以降も持続可能な開発を教育に統合していくことを決意する。



4. ESDに関するユネスコ世界会議



1. 10年間の活動の記念

—何を達成できたか、また、どのような教訓が得られたか—

2. 万人のためのより良い未来を築くための教育の新たな方向付け

—持続発展教育は質の高い教育の強化にどのように役立つのか—

3. 持続的な発展のための行動の促進

—持続発展教育を通じて、持続性という課題にどのように取り組めるのか—

4. ポスト2014のための持続発展教育アジェンダの作成

—私たちの共通の未来のための戦略とは—

(1) 愛知県・名古屋市で開催される閣僚級会合
及び全体の取りまとめ会合

2014（平成26）年11月10日（月）から12日（水）

11月13日（木）国内の関係者によるフォローアップ会合開催



(2) 岡山市で開催される各種ステークホルダーの主たる会合

①ユネスコスクール世界大会

2014（平成26）年11月6日（木）～8日（土）

②ユース・コンファレンス

2014（平成26）年11月7日（金）

③持続可能な開発のための教育に関する拠点の会議

2014（平成26）年11月4日（火）～7日（金）

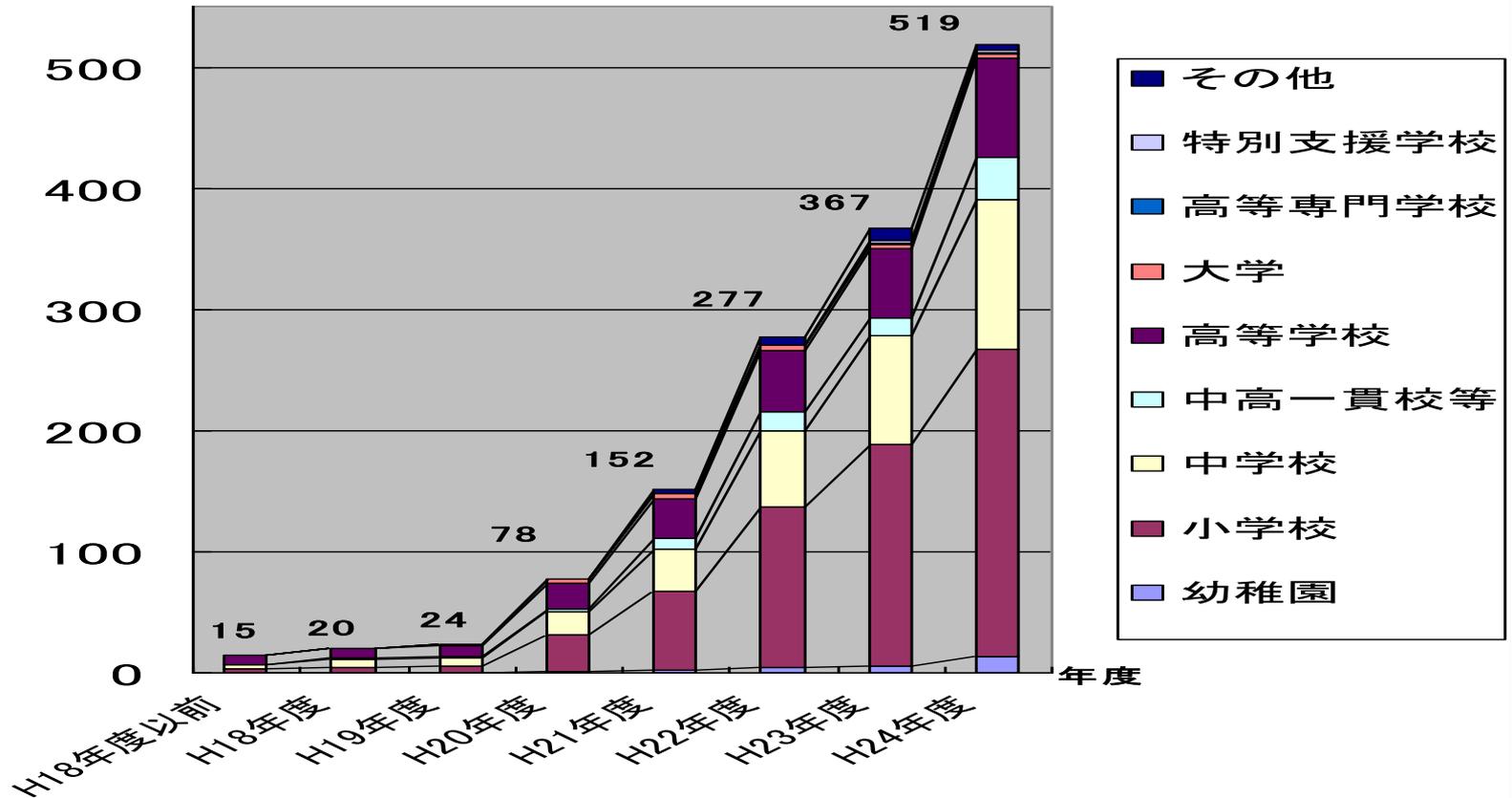


※個別会議名称は仮称

ESDとユネスコスクール

ユネスコスクール加盟校の推移

校数



- ・ 学習指導要領、教育振興基本計画にESDの理念反映

ユネスコスクールガイドライン

(平成24年8月20日 日本ユネスコ国内委員会)

ユネスコスクールとして大切なこと

- ・ ユネスコスクールの活動には、次のようなことが大切ですので、各学校におかれては、これらの点を念頭において活動いただくことを期待しております。
- ・ 国内外のユネスコスクール相互間のネットワークを介して、互いに交流相手の良さを認め合い、学び合うこと。
- ・ 地域の社会教育機関、NPO等との連携などを通じて、開かれたネットワークを築くよう努めること。
- ・ 校内外における各種研修の充実・活用を図るなど、ユネスコスクールの活動を通じて広く学校外にも働きかけ、我々人類社会が持続的に発展するよう心がけること。
- ・ 学校経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくすること。
- ・ ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力すること。
- ・ 必要に応じ、ASPUnivNet^[1]加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を得ながら、ユネスコスクールの活動の充実に努めること。

[1] ユネスコスクールのパートナーとして、ユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワーク。

ユネスコスクールガイドライン

持続発展教育（ESD）推進拠点として大切なこと

- ユネスコスクールが持続発展教育（ESD）推進拠点として発展していくには、次のようなことが大切ですので、各学校におかれては、これらの点を念頭において活動いただくことを期待しております。
- 持続発展教育（ESD）を通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めること。
- 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めること。
- 持続発展教育（ESD）の推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、持続発展教育（ESD）の理念の普及に努めること。

持続発展教育（ESD）とは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育であり、その中には、国際理解、環境、多文化共生、人権、平和、開発、防災などテーマ・内容が含まれます。従って、持続発展教育（ESD）で取り上げるテーマ・内容は必ずしも新しいものではありません。むしろ、それらを持続発展教育（ESD）という新しい視点から捉え直すことにより、個別分野の取組に、持続可能な社会の構築という共通の目的を与え、具体的な活動の展開に明確な方向付けをするものです。また、それぞれの取組をお互いに結び付けることにより、既存の取組の一層の充実発展を図ることを可能にします。

持続発展教育（ESD）の実施においては、「人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと」や、「他人、社会、自然環境との関係性を認識し、関わり、つながりを尊重できる個人を育むこと」の観点が必要です。

持続発展教育（ESD）の理念は、現行の教育振興基本計画（平成20年7月策定）に盛り込まれていますし、学習指導要領（平成20年、21年公示）で示されている「生きる力」という理念にも通ずるものです。

5. ポスト2014への展望

1. 「新たな10年」

or

「プログラムフレームワーク」

2. Post MDGs + sustainable development



Thank you !

iwamoto@mext.go.jp